

株主の皆様へ



森下仁丹株式会社

第70期事業報告書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

証券コード：4524

ごあいさつ

株主の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

ここに、当社グループの第70期（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。よろしくご高覧賜り、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

事業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益の拡大、設備投資の増加等を背景に景気は緩やかに回復し、個人消費についても所得の緩やかな増加等を背景に総じて回復基調に推移したものの、当社グループの当連結会計年度の様子は、健康食品通販事業の競合激化等により厳しい結果となりました。

このような状況のなかで、当中間連結会計期間の業績不振の経営責任明確化のため昨年10月に代表取締役社長の交替を行い、新社長の陣頭指揮のもと販売戦略の見直しによる利益重視の売上高の確保や経費の徹底した合理化を進め、黒字経営への転換施策を強力に推進いたしました。その結果下半期単独では公表のとおり連結売上高3,780百万円（前年同期比892百万円減）、連結経常利益72百万円（前年同期比598百万円増）を計上するにいたりましたが、上半期の大幅な連結経常損失が影響し、通年では連結売上高7,946百万円（前年同期比1,865百万円減）、連結経常損失716百万円（前年同期比272百万円減）を計上することとなりました。

一方連結特別損益では、本社工場・研究所の移転に伴う不動産等の売却により8,517百万円の固定資産売却益を計上するに至りましたが、減損会計の適用、移転に伴う機械設備の除却・在庫整理等による3,521百万円の構造改革損が発生、また法人税等の負担1,708百万円があり、結果として連結当期純利益は2,553百万円（前年同期比2,742百万円増）となりました。

なお、当連結会計年度は経常赤字であります。大幅な特別利益があり株主資本の充実ができたことに加え足元の経常黒字体制もほぼ見えてきたこと、また他社動向など総合的に判断し、平成14年3月期よりの無配の状況から脱却し、今回1株当たり2円50銭の配当を実施させていただきます。

分野別では、「緑茶青汁」や「ビフィーナ」等の健康食品の通信販売を中心とするヘルスケア分野においては、昨年10月よりコアマーケットをシニア層とし、「100年人生を支援する」というアイデンティティを確立し、シニア層を中心としたお客様の健康づくりをお手伝いする商品および販売戦略をスタートさせました。但し利益重視の営業展開を行ったことにより下半期の売上高が低下し、通年ベースの連結売上高は3,949百万円（前年同期比1,520百万円減）となりました。

当社グループの創業来の「銀粒仁丹」類を主とするオーラルケア分野および創傷被覆剤「メディケア」を主とするメディカルケア分野では、ロート製薬株式会社との共同販売会社である「株式会社メディケアシステムズ」が順調に機能しているものの当社の新製品・リニューアル品の開発遅れ、また構造改革の一環として低採算商品の積極的な商品見直しを行ったことから、オーラルケア分野の連結売上高は673百万円（前年同期比257百万円増）、メディカルケア分野の連結売上高は603百万円（前年同期比50百万円減）と低水準な結果となりました。



代表取締役社長
村村 純一

また、カプセル受託事業分野では菓子を中心とした海外大口案件が一段落し、収益性の高いプロバイオティクスおよび機能性カプセルに注力しましたが、大口案件の落ち込みが大きく影響したことに加え海外受託案件の期ズレが発生し、連結売上高は1,884百万円（前年同期比445百万円減）となりました。

ここ数年 通信販売事業・カプセル受託事業という収益性の高い事業へのウェイトシフトを実施してまいりましたが、上記事業も競合激化しつつあり、今後は当社の技術のルーツである生薬やカプセルを中心とした当社ならではの事業領域への拡大をも指向し、より安定し強固な収益基盤の構築を目指してまいります。

通信販売事業では、マス媒体を活用した従前の宣伝手法に加え、お客様と直接触れ合える接点を増加させ、中高年からの圧倒的な信頼を得ている「仁丹ブランド」を活かしたお客様の拡大策を展開してまいります。

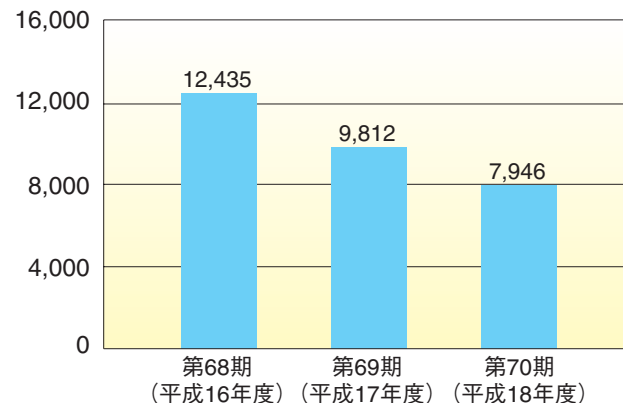
カプセル受託事業においては、シームレスカプセルの特徴を活かしたプロバイオティクス分野への注力に加え、その皮膜技術を応用した医薬品・工業製品への展開を急ぎ、シームレスカプセルのパイオニアとしての足元を強固なものにしてまいります。

国内小売店販売事業につきましては、業務・資本提携先でありますロート製薬株式会社との共同販売会社である株式会社メディケアシステムズ（平成17年7月1日設立）に販売業務を移管しておりますが、同社を通じて引き続き事業の再構築、拡大を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

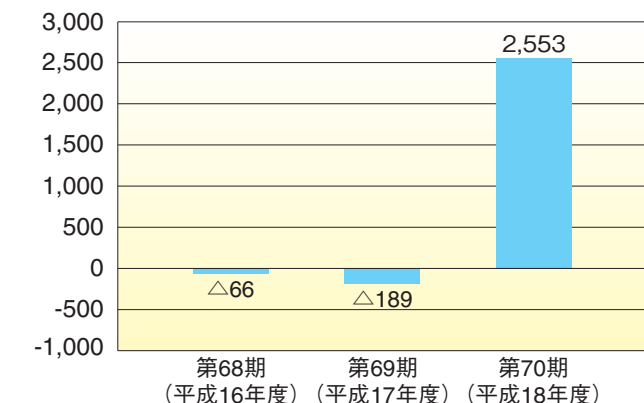
◆ 売上高（連結）

（単位：百万円）



◆ 当期純利益（連結）

（単位：百万円）



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	当連結会計年度 (平成19年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成18年3月31日現在)
(資産の部)			
I 流	現金及び預り金	10,635	4,768
	受取手形及び売掛金	8,590	1,180
	延滞金	911	1,583
	その他の流動資産	1,013	1,868
	税金	4	5
	固定資産	114	131
II 固	(1)有形固定資産	2,401	4,930
	建物	1,580	3,974
	構築物	1,065	1,977
	機械及び装置	0	1,086
	運搬工具	514	804
	その他有形固定資産	1	102
	(2)無形固定資産	—	1
	(3)投資その他の資産	0	104
	有価証券	820	851
	債権	669	656
	その他	151	193
	資産合計	13,037	9,698
(負債の部)			
I 流	支払手形及び買掛金	3,652	3,623
	短期借入金	903	1,269
	商品及び引当金	174	1,482
	その他流動負債	25	25
II 固	長期借入金	2,550	847
	固定負債	2,443	1,683
	その他固定負債	772	1,087
	負債合計	1,671	593
	少数株主持分	6,096	5,306
	—	—	—
(資本の部)			
I 資	資本金	—	3,537
II 資	資本剰余金	—	963
III 利	利益剰余金	—	△ 232
IV 自	自己株式	—	178
V 自	自己株式	—	△ 54
	資本合計	—	4,392
	負債、少数株主持分及び資本合計	—	9,698
(純資産の部)			
I 株	株主資本	6,765	—
(1)資	資本金	3,537	—
(2)資	資本剰余金	963	—
(3)利	利益剰余金	2,321	—
(4)自	自己株式	△ 56	—
II 評	評価差額金	175	—
III 少	少数株主持分	175	—
	純資産合計	6,940	—
	負債・純資産合計	13,037	—

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	当連結会計年度 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)
I 売	売上高	7,946	9,812
II 売	売上原価	4,328	5,106
	売上総利益	3,618	4,705
III 販	販売費及び一般管理費	4,174	5,435
	営業損失	556	729
IV 営	営業外収益	41	31
V 営	営業外費用	201	290
	経常損失	716	988
VI 特	特別利益	8,525	1,322
VII 特	特別損失	3,546	506
	税金等調整前当期純利益又は当期純損失(△)	4,262	△173
	法人税、住民税及び事業税	1,181	21
	法人税等調整額	526	△5
	当期純利益又は当期純損失(△)	2,553	△189

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
平成18年3月31日残高	3,537	963	△ 232	△ 54	4,214	178	178	—	4,392
連結会計年度中の変動額	—	—	—	—	—	—	—	—	—
当期純利益	—	—	2,553	—	2,553	—	—	—	2,553
自己株式の取得	—	—	—	△ 2	△ 2	—	—	—	△ 2
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△ 3	△ 3	—	△ 3
連結会計年度中の変動額合計	—	—	2,553	△ 2	2,551	△ 3	△ 3	—	2,547
平成19年3月31日残高	3,537	963	2,321	△ 56	6,765	175	175	—	6,940

貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	当期 (平成19年3月31日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
(資産の部)			
I 流	現金及び預金	10,563	4,728
	受取手形及び売掛金	8,540	1,148
	有価証券	892	1,582
	固定資産	1,000	1,845
	有形固定資産	130	150
II 固	(1)建物及び構築物	2,413	4,952
	機械及び装置	1,579	3,973
	運搬工具及び什器備品	1,065	1,977
	土地	0	1,086
	建物	514	804
	構築物	0	101
	機械及び装置	—	1
	運搬工具及び什器備品	—	104
	土地	834	875
	建物	742	692
	構築物	92	181
	固定資産	—	—
	有形固定資産	—	—
	無形固定資産	—	—
	投資有価証券	834	875
	債権	742	692
	債権	92	181
	負債	—	—
	流動負債	—	—
	固定負債	—	—
	負債合計	12,977	9,681
(負債の部)			
I 流	支払手形及び買掛金	3,622	3,573
	短期借入金	903	1,269
	長期借入金	174	1,482
	リース負債	25	25
II 固	固定負債	2,519	794
	長期借入金	2,442	1,681
	リース負債	772	1,087
	負債合計	1,670	592
	負債合計	6,064	5,255
(資本の部)			
I 資	資本金	—	3,537
II 利	剰余金	—	963
III 当	期未処分利益	—	△ 199
IV 自	己資本	—	199
V 自	己資本	—	178
	資本合計	—	△ 54
	資本合計	—	4,425
(純資産の部)			
I 株	株主資本	6,737	—
(1)資	本	3,537	—
(2)資	本	963	—
(3)利	益	963	—
	剰余金	2,293	—
	剰余金	2,293	—
	剰余金	769	—
	剰余金	1,523	—
II 自	己資本	△ 56	—
	剰余金	175	—
	剰余金	175	—
	剰余金	175	—
	剰余金	6,912	—
	負債・純資産合計	12,977	—

損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	当期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)	前期 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)
I 売	上	7,669	9,477
II 売	上	4,337	5,136
	上	3,331	4,341
III 販	上	3,940	5,149
	上	608	808
IV 営	業	50	54
V 営	業	203	281
	業	761	1,035
VI 特	別	8,554	1,349
VII 特	別	3,603	506
	別	4,189	△ 192
	別	1,170	7
	別	526	—
	別	2,492	△ 199
	別	—	199

株主資本等変動計算書

当期（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）

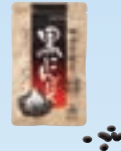
(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
平成18年3月31日残高	3,537	963	—	△ 54	4,247	178	178	4,425
事業年度中の変動額	—	—	—	—	—	—	—	—
固定資産圧縮特別勘定積立金の積み立て	—	—	769	—	—	—	—	—
当期純利益	—	—	2,492	—	2,492	—	—	2,492
自己株式の取得	—	—	—	△ 2	△ 2	—	—	△ 2
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△ 3	△ 3	△ 3
事業年度中の変動額合計	—	—	769	△ 2	2,490	△ 3	△ 3	2,486
平成19年3月31日残高	3,537	963	769	△ 56	6,737	175	175	6,912

《新製品のご紹介》

第70期下期の新製品は次のとおりです。

○通信販売部門○



田子の越冬黒にんにく ¥1,680
無添加でじっくり醗酵熟成

にんにくは厳選した青森県田子町産「福地ホワイト六片」だけを使用。戻り臭が軽く、胃にもやさしいため飲み続けやすい小粒のカプセルです。
内容量：60粒入



仁丹のコレストールファイバー ¥3,780
おなかの中と周りをスキッと！

「摂り過ぎたコレステロールの吸収を抑える」、「おなかの調子を整える」の2つの機能を併せ持った特定保健用食品です。食物繊維の豊富なサイリウム種皮が原材料です。
内容量：6g×30本

○小売店販売部門○



オラクル液体のだ飴 キンカン味/梅味 ¥210
直撃！プチッと！とスーハー 瞬間のださわやか

プチッととした食感のあと、ジューシーなミントフレーバーが、お口で溶けて、のだにスーッと広がる爽快感。6種のハーブエキスののだに潤いを与えます。
内容量：25粒入



オラクルウルトラミント ¥210
眠気スッキリ！

噛むとシャープな強力ミントの刺激がお口に広がり、眠気スッキリ！会議中・ドライブ中・昼食後の眠気等におすすめします。
内容量：24粒入



オラクル1ショット ペパーミント/レモン ¥158
ニンニク料理やアルコールの後にワンショット！

胃と腸に届く2層カプセル採用で、にんにく料理やお酒を飲んだ後のお口のエチケットに最適です。
内容量：2粒×2包



仁丹電子体温計MT1611 ピピット正確 ¥1,344
簡単便利に使え体温計

正確に測れる実測式を採用しました。
10gと軽量でコンパクト。前回値メモリー機能付。

※表示価格はすべて税込です。

《工場・研究施設の移転先を大阪「津田サイエンスヒルズ」に決定》

当社は先に発表しました工場・研究施設の移転先を、「関西文化学術研究都市」の中核の一つである大阪府枚方市の「津田サイエンスヒルズ」に決定し、用地を取得いたしました。新施設は研究開発をメインとする開発型工場を指向し、当社のテクノセンターとして営業する計画です。概要は以下のとおりです。

概要

所在地：大阪府枚方市津田山手（津田サイエンスヒルズ）

面積：7,000㎡（2,121坪）

建物延床面積：約6,200㎡（3階建）

稼動開始予定：平成21年1月

なお、同時に後述の当社の研究開発事業等が大阪府より先端産業と認定され、大阪府企業立地促進条例施行後の先端産業補助金の第1号認定案件になりました。補助金は約3億円の予定ですが、補助の時期等詳細は未定です。



《カプセルの研究成果を続々と公表》

平成19年3月23日に発表いたしました神戸大学と共同出願した経口腸チフスワクチンの製品化をはじめ、医療用および一般用医薬品開発を継続して推進いたします。来年度には1アイテムが製品化に至る見込です。

また、1月に発表したバイオエタノールや汚水処理に展開可能な工業用バイオカプセル、5月に発表した農業用カプセルなど従来の一般食品での展開にとどまらず、非食品分野への拡大展開も図ってまいります。

会社概要（平成19年3月31日現在）

役員

代表取締役社長	駒	村	純	一
取締役名誉会長	森	下	美	恵子
取締役	武	貞	文	隆
取締役相談役	相	原	之	壽
取締役	森	岡	茂	夫
監査役(常勤)	高	橋	優	夫
監査役	渡	邊	俣	治
監査役	安	田	重	次
常務執行役員	高	田	真	一
執行役員	園	井	伸	輔

(注) 1. 期末日以降の取締役の異動

- ①平成19年6月28日付で取締役相談役相原之壽、取締役森岡茂夫は任期満了により退任いたしました。
- ②平成19年6月28日付で木村雅則が取締役に選任され就任いたしました。
- ③平成19年6月28日付で石原真弓が補欠監査役に選任されました。

2. 監査役のうち渡邊俣治、安田重次の両氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

商号

森下仁丹株式会社
MORISHITA JINTAN CO., LTD.

資本金

35億3,740万円

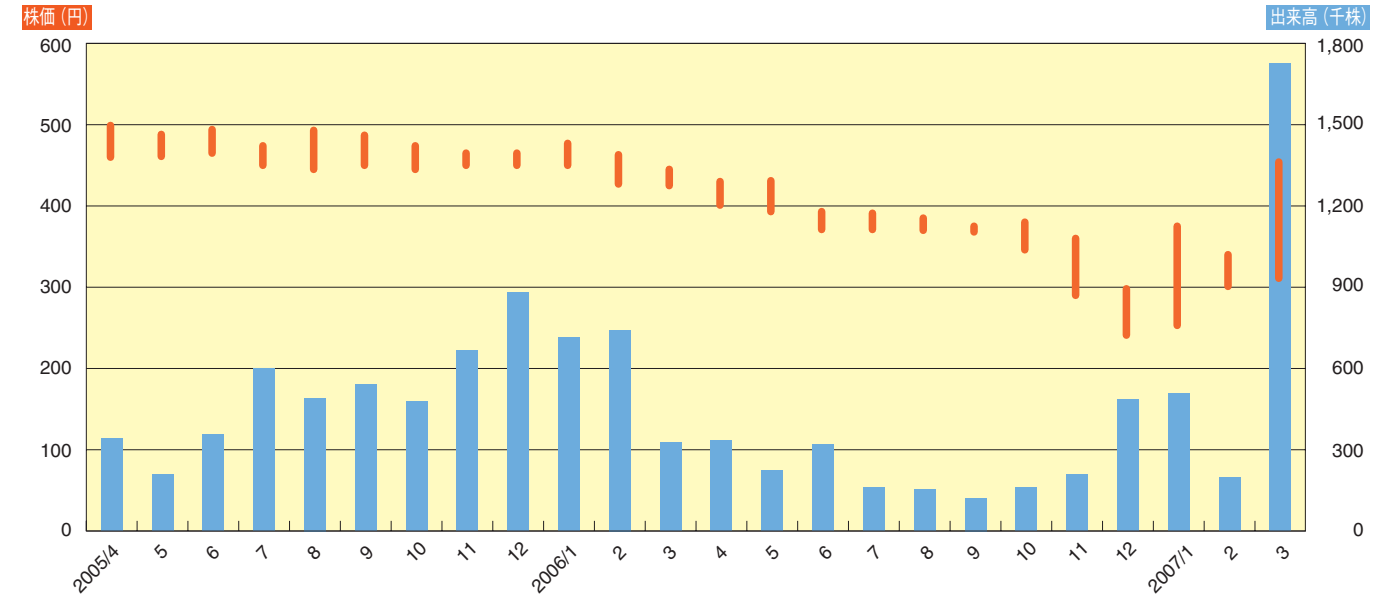
事業の内容

医薬品、医薬部外品、医療用具、化粧品、食品および雑貨等の製造販売

事業所および工場

本社	大阪市中央区玉造一丁目1番30号	電話(06)6761-1131(代表)
本社工場	大阪市中央区玉造一丁目1番30号	電話(06)6761-1135
仁丹ミラセル工場びわ湖	滋賀県犬上郡多賀町大字四手諏訪960番地12	電話(0749)48-7370

株価および出来高推移



株 主 メ モ

事業年度末日	3月31日
剰余金受領株主確定日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
定時株主総会	6月中
公告掲載方法	日本経済新聞に掲載する
上場取引所	株式会社大阪証券取引所 市場第二部 株式会社東京証券取引所 市場第二部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
事務取扱場所	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話(通話料無料) 0120-094-777
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店 ●株式会社関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。 電話(通話料無料) 0120-244-479 (本店証券代行部) 0120-684-479 (大阪証券代行部) インターネットホームページアドレス http://www.tr.mufg.jp/daikou/